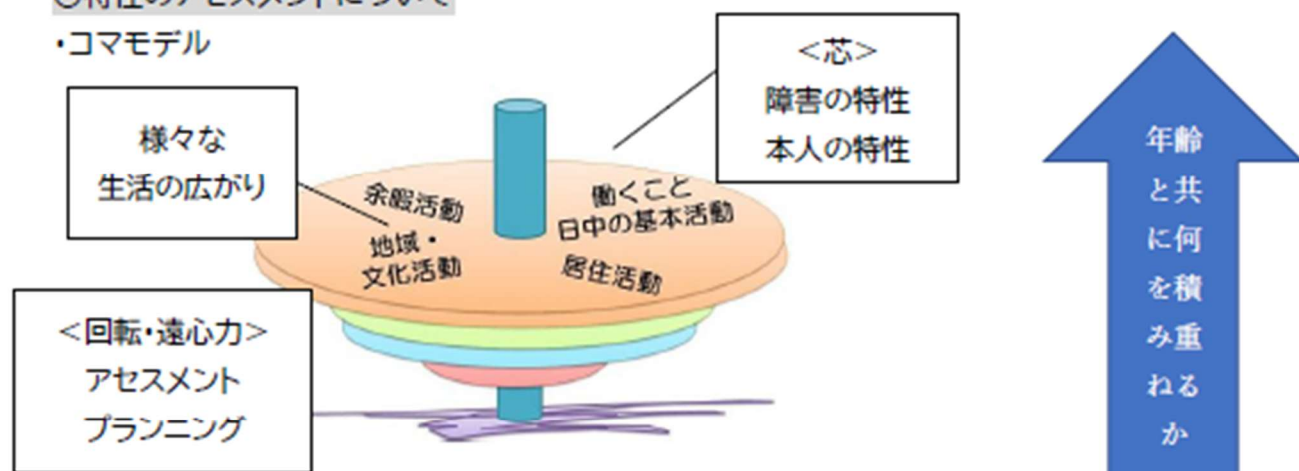


「フレームワークを活用した特性のアセスメント」

講師 TEACCH プログラム研究会 宮崎支部 代表理事 水野敦之 氏

○特性のアセスメントについて

・コマモデル



- ・個別支援を作る時には、支援に関わる人は本人の特性を軸として考える必要がある。
- ・移行支援→具体的な計画の移行(例:机の右端にコップを置くようにしています)では環境や文化が変わると同じようにできないことが多い。その為、軸となる本人の障害の特性(例:明確な指示や範囲がないとどのように行動したら良いか分からない)を伝えないと意味がない！

○特性シートについて

目的:・特性に合わせた一貫した方向性のガイドラインとなる

- ・保護者を含む協働チームでの共通認識を持つ
- ・合理的配慮の明文化
- ・スタッフのトレーニング(時間がかかるアセスメントスキルだからこそ、スタートから始める)
- ・保護者や関係機会への説明のシナリオとして使える

○特性シート記入のステップ

ステップ1

自閉症及び発達障害の影響を受けている行動・様子を、特性シートの各特性(左の項目)を書き出す

ステップ2

本人の行動・様子から、特性シートの各特性(左の項目)を要約して解説できる文面で書き出す  
支援の方向性も要約して書き出す

ステップ3

ある一定の期間(1時間・1日・1週間)を観察して特性シートの各特性(左の項目)を要約して解説できる文面をかきだす。支援の方向性も要約し、必要に応じて修正する。

## ○氷山モデルで考える

### ○関連する特性の支援者のくせ

- ・痼癢が何で起こるかを考える→その子の特性に加えて背景を考えることも大切

### ○自閉スペクトラム症

〈注目の特性×優先順位〉

全体よりも細部を強く注目

周囲の状況よりも視覚的な情報、自分のイメージを優先させてしまう

支援者は注目出来ない事ばかりに注目しがち！

注目しなくてもいいものに注目することも視野に入れる

### ○ADHD

〈注目の特性×優先順位〉

不安定な注目

周囲の状況よりも満足を優先させてしまう(今やっていることと好きな事への達成)

### 基本的な支援

- ・満足・多動を組み込む・      シンプルな工夫、環境      ・成功体験を繰り返し、良い習慣をつくる
- ・成功を気付ける状況作り      満足、達成感、認められるで包み込む！成功体験で習慣を作る

### ○活動・課題遂行の6つの情報

- ・いつ      (スケジュールで提示されたタイミングで)
- ・どこで      (プランターの場所で)
- ・何を      (水やりをやる)
- ・どのようなやり方で      (番号の指示に従って)
- ・どうなったら終わりなのか      (番号の指示カードがなくなったらおわり)
- ・終わったら、次に何があるか      (次の活動をスケジュールで確認する)

### ○5W2H

- ・When(いつ)      (虫のお世話の時は)
- ・Where(どこで)      (活動のテーブルで)
- ・Who(だれを)      (僕は)
- ・What(なにを)      (虫を)
- ・Why(なぜ)      (死んでしまうから)
- ・How(どのように・どのくらい)      (優しく扱う、強くつかまない)